

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 3 年 7 月 16 日現在

機関番号：99999

研究種目：奨励研究

研究期間：2020～2020

課題番号：20H00688

研究課題名 地域における「開発」と「公害」の比較史研究とその教育的活用

研究代表者

小川 輝光 (OGAWA, TERUMITSU)

神奈川学園・教諭

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 450,000 円

研究成果の概要：本研究は、「地域開発」とそれに伴う「環境破壊」や「公害」などを対象に、その歴史的展開を分析・記録すること、今日の社会変化に応える歴史教育の授業として教材化できるようにすること、を目的にして実施しました。その成果として、水俣病や各地の大気汚染などに関する地域資料の収集分析、研究会での報告や、図書・論文としての成果の公開、勤務校や大学の教員養成の授業での教材化を行いました。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、水俣病被害者によるアジア各地との交流の足跡、瀬戸内海や、尼崎、川崎の大気汚染公害の相互連関の様子、横浜方式と地方の核関連施設開発の様子、水俣病被害とコロナ禍の類似性などを調査しました。歴史学においては、戦後日本社会史研究の発展に貢献しています。社会科教育学では、「環境責任」という概念を軸とした授業実践事例を研究論文として公開しました。また、知りえた内容は、社会活動に応用しています。環境教育の分野で公害学習の今日的な普及を行い、歴史教育の分野で東アジア共通歴史教材開発、地域社会の変化と世界史を結ぶ教材開発、歴史総合向け資料集作成を行いました。

研究分野：歴史教育

キーワード：公害 環境 開発 水俣 東アジア 歴史教育 社会科 歴史総合

1. 研究の目的

本研究は、「地域開発」とそれに伴う「環境破壊」や「公害」などを対象に、その歴史的展開を分析・記録すること、今日の社会変化に応える歴史教育の授業として教材化できるようにすること、を目的にしています。

研究の背景には、次の6点があります。

日本では高度成長終焉から半世紀近くたち、多様な体験の記憶の検証と記録化が歴史研究の対象となってきました。そのような研究の一環として、当時の地域開発やそれに反対する反公害運動・住民運動で重要な要素となっていた人々の「学び」に着目し、地域社会の内部構造を、今日と比較しながら内容的・方法的に考察する必要があると考えています。

特に「地域」と「公害」をめぐる歴史研究は、2011年の東日本大震災と福島第一原発事故を経験した日本社会にとって、歴史学や環境教育学、社会科教育学の在り方への再検討となるとともに、実社会の課題にも歴史的考察を与えることになります。

このような地域を対象とした教育活動、歴史研究であっても、今日では、SDGsといった世界的な活動目標や、環境汚染といった地域環境問題など、世界的・国際的な構造の中で捉える必要があります。地域内部にある世界的な問題を明らかにしたり、対象に迫る私たちの視座や認識をグローバルな視点で考察の対象としたりしながら、研究を進めたいと考えます。

もう一つの対象をとらえる視点として、認識論的転回後の歴史学や国際的な歴史認識問題、構築主義的歴史教育論の到達点を踏まえたいと考えています。地域内部の多様な認識を組み込む歴史研究と教材化を目指します。

新学習指導要領への移行が進み、「社会に開かれた教育課程」「探究的な学習」が強調されるようになっていきます。学校を取り巻く地域社会の実情をつかみ、多様な立場の意見を把握し、共生社会を目指す教育活動をいかに実現するか、歴史学・歴史教育の社会貢献の一環として実践的に明らかにすることが求められています。

同時に、大学では教職課程の再編が進んでいます。新たな教育課題を踏まえ、地域に入り独創的な授業を行える教員の養成のためのカリキュラム開発も必要です。

2. 研究成果

(1) 比較公害史資料調査

水俣病被害者によるアジア各地との交流の足跡、瀬戸内海や、尼崎、川崎の大気汚染公害の相互関連の様子、横浜方式と地方の核関連施設開発の様子などを調査しました。コロナ禍で県外の現地調査は実施できませんでしたが、複数の資料館のデータベース検索を活用し、資料の取り寄せを行うことができました。県内の事例については現地調査も実施しました。

(2) コロナ禍との比較

本研究は、新型コロナウイルス感染症の拡大で、現地調査や授業開発、研究発表ができなくなるなど予定外の事態に見舞われました。一方で、水俣病学習からコロナ禍にいかせることについて検討を深めることができました。その成果の一部は、日本環境教育学会の研究会で報告をしました。

(3) 勤務校の授業などへの反映

勤務する中学校高等学校の社会科や総合学習において、環境の歴史、感染症の授業、水俣病学習など成果を反映させました。また、ビキニ事件の歴史を共有するマーシャル共和国の学校とオンライン交流を開始し、自分たちの環境について意見交換をしました。大学の社会科教育法で、現在の感染症問題研究所の移転反対運動と旧陸軍軍医学校からの人骨発見問題につき教材化し、履修学生の自主編成授業づくりに反映させました。

(4) 論文・図書としての公開

「環境責任」という概念で過去の公害を比べ、未来への環境づくりに取り組む授業を開発し、論文化しました。研究成果の一部は、『神奈川から考える世界史』(2021年刊行予定)、『「ともに学ぶ人間の歴史」授業ブックレット№9』(2021年刊行予定)などの図書にも分担執筆し、反映させました。

(5) 教材開発

研究成果の一部は、日中韓三国共通教材づくり(2022年刊行予定)、日本環境教育学会と公害資料館ネットワーク協同の公害学習入門書づくり(2021年刊行予定)、歴史総合用資料集(2021年刊行予定)などにも反映しています。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1．著者名 小川輝光	4．巻 39
2．論文標題 高等学校における「環境教育」の授業実践―「公害輸出」の視点に注目して―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 中等社会科教育研究	6．最初と最後の頁 11 - 20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 小川輝光	4．巻 911
2．論文標題 中学歴史 遠隔授業で「感染症と歴史」に取り組んで：「緊急事態」下での試み	5．発行年 2020年
3．雑誌名 歴史地理教育	6．最初と最後の頁 60 - 65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 3件／うち国際学会 0件）

1．発表者名 小川輝光
2．発表標題 公害曼荼羅はありうるか？
3．学会等名 日本環境教育学会（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 小川輝光
2．発表標題 コロナ禍の地域学習―近現代を中心に
3．学会等名 歴史教育者協議会
4．発表年 2021年

1．発表者名 小川輝光
2．発表標題 歴史総合に向けた提案：水俣病学習から「環境問題と私たち」へ
3．学会等名 中等社会科実践研究会（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 小川輝光
2．発表標題 高等学校における「環境教育」の授業実践―「公害輸出」の視点に注目して―
3．学会等名 中等社会科教育学会（招待講演）
4．発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1．著者名 藤村泰生・藤田賀久・市川憲司・小川輝光・谷口天祥・智野豊彦・中山拓哉・鈴木晶・伴在渚・徳原拓哉・岩下哲典・神田基成・坂口可奈・風巻浩・山田大介・田中孝枝・韓準祐・深松亮太・安田震一	4．発行年 2021年
2．出版社 えにし書房	5．総ページ数 —
3．書名 神奈川から考える世界史（仮題）	

1．著者名 若杉温・小林優香・黒田貴子・小川輝光	4．発行年 2021年
2．出版社 学び舎	5．総ページ数 —
3．書名 「ともに学ぶ人間の歴史」授業ブックレット№9	

1．著者名 安藤聡彦・林美帆・高峰武・関礼子・向井嘉之・堀田恭子・井部正之・友澤悠季・除本理史・高橋若菜・川原一之・清水善仁・大久保規子・原子栄一郎・平野泉・古里貴士・高田研・岩松真紀・前嶋匠・小川輝光	4．発行年 2021年
2．出版社 ころから	5．総ページ数 —
3．書名 公害からの問いかけ（仮）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------